

東海道 [Board]

芸者と老人と役人の珍道中

京都から江戸に向かって旅をしながら、料理や景色を楽しむフランスのゲーム。作者は『世界の七不思議』『タケノコ』『花火』の A.ボザ。柔道をやっていたり、来日経験があったりと、親日国家フランスの中でも特に親日家である。このゲームでも日本の人物、料理、土産がふんだんに出てきて、いかに日本好きであるかが分かる。

大箱だが、賞味 30 分くらいのライトなゲームである。コマを進めて、行き先のアイテムを取り、得点を競う。

コマは常に一番後ろにいるものが進む。コマを進めるのはサイコロではない。空いているマスならば、どこまで進んでもよい。ただし後戻りはできず、ところどころにある宿場では必ず止まらなければならない。クニツシアの『ツタンカーメン』で用いられたシステムである。みんなが欲しがりそうなものは先に取りたいが、あまり飛ばしすぎると数を集められなくなるというジレンマ。飛ばしすぎると当分手番が来ない。



じっくり進んでアイテムを増やすか、一気に進んでほしいものを先取りするかさて、各プレイヤーにはキャラクターが渡される。これによって最初の資金と、ゲーム中の特典が異なり、自ずと止まりたいマスも変わってくるというわけだ。止まる場所と手に入るものは次の通り。

村・・・土産を買う。土産は小物、衣服、美術品、飲食物の 4 種類があり、同じ物を集めるほど得点上がる

田畑・・・なぜかお金を拾う

景観・・・景観カードを手に入れる。海、山、水田の 3 種類があり、集めるほど得点上がる

温泉・・・温泉カード（普通に得点）を手に入れる

神社仏閣・・・お金を寄付してその分だけ得点

東海道 [Board]

出会い・・・得点、お金、景観、土産。何が出るかな？

宿場・・・強制ストップ。料理を購入する



東海道（キャラクター）

役人・吉保は金を持っていて出会い系に強い。芸者・笹奴は土産買いが得意。老人・光圀は温泉好き

道中なくてはならないものがお金だ。温泉や景観は無料だが、それだけで勝つことは不可能。ところが初期資金のほかに、お金が入るのは田畑のマスに止まったときと、出会いで「公家」を引いたときだけ。お金がないと特に困るのは宿場で、ここで料理を食べられないと相当なビハインドになってしまう（宿場は先に入るほど料理が安い。だから道中あまりのんびりしてられない）。目移りして散財しないよう、節約を心がけたい。

全員がゴールしたら、景観、料理、温泉、出会い、土産のトップ賞が贈られ、合計得点の多い人が勝ち。

東海道（アイテム）

絶景！ 海上に鳥居が・・・ってそんな風景、東海道にありましたか？

3人プレイ。神尾さんは金持ちで出会い系に強い吉保・・・って何か不純な旅の予感。私は笹奴で土産に強かったが、なかなか村に入れず。しかも神社に賽銭をあげたりしているうちに金欠になってしまい、景観を見るだけの旅に。一番ぶれていなかったのはぼちょむきんすた一さんの光圀で、ひたすら温泉に入りつつ（温泉がプラス1点という特典）、土産物に走り、景観は一切見ないという徹底ぶりで圧倒的な1位。

どう動いてもそれなりに点数が入ってくるところと、どこに止まれば一番点数が高いかは引いたカード次第というところから、先の先を読むとかあまり考えないで気楽に旅を楽しむという、テーマに沿ったゲームである。

A.ボザ／ファンフォージ（2012年）2～5人用／8歳以上／45分